

# 授業計画（シラバス）

専門課程 理容科 2年次

広島県理容美容専門学校

ヘアデッサン美術	1
接遇・コミュニケーション	2
サロン英会話	3
パーソナルカラー	4
課題演習	5・6
理容総合	7
シェービング	8
シャンプー&マッサージ	9
理容実習	10

課 目 名	ヘアデッサン美術			必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	向川 貴晃		無	
履修年次	2年全期	曜 日	火	時 限	2	単位数	1	時間数	30
学習目標	デッサンを通して人体、頭部構造を把握し、美しいバランス感覚を習得します。美的感覚を養い、ヘアデザイン、ヘアカットへの還元を目指します。								
授業概要	基礎的構造を学習し、対象にどのような造形要素があるのか分析します。また、鉛筆で平面へ描く技術を実践していきます。頭で考え、想像したものを、平面へ再構築する中で平面表現能力を高めます。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	幾何形態から学ぶ基礎的構造 I				幾何形体から面や光の概念を学んでいきます。				
第2回	幾何形態から学ぶ基礎的構造 II								
第3回	パーツ毎を描く練習 I				目、鼻、口といったパーツを描けるように練習します。				
第4回	パーツ毎を描く練習 II								
第5回	プロポーション				パーツをどこにどう配置すればよいかを学びます。				
第6回	全体像を描く I				頭部全体を把握し、ヘアスタイルを描けるようにしていきます				
第7回	全体像を描く II								
第8回	全体像を描く III								
第9回	明暗と調子				鉛筆で表現可能な黒と白の実践				
第10回	線の表現 I				調子よりも線で、より明確な表現				
第11回	線の表現 II								
第12回	選択と表現 I				モチーフを自分で選び的確にヘアデザイン画を描けるようにします。				
第13回	選択と表現 II								
第14回	選択と表現 III								
第15回	まとめ				学習したことを総合的にまとめ、作品を描きます。				
教科書									
参考書	ヘアスタイル画によるトータルファッション（日本理容美容教育センター）								
成績評価	前期・後期作品提出 評価点60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定する。								

令和5年度 理容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	接遇・コミュニケーション			必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	金田 英美		無	
履修年次	2年全期	曜 日	水	時 限	3	単位数	1	時間数	30
学習目標	広島県理容美容専門学校の①学生として相応しく②就職活動に役立ち③就職後も自信を持って社会生活をスタートできることを目指した接遇マナー・コミュニケーション力を身につける。								
授業概要	講義・ロールプレイ形式。形だけの接遇マナーやコミュニケーション論ではなく、最新の実践行動心理学を取り入れた心が伝わる表現力を学ぶ。体験学習を通して「出来る」レベルを目指す。								
年間授業計画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	社会人としての基本				学生と組織人の違い 職場でモラル、人間関係				
第2回	好感度の高い動作				印象管理・身だしなみ・挨拶・立居振舞の体験学習				
第3回	就活マナー				就活での基本動作・自己PRのポイント				
第4回	言葉づかい1				敬語の基礎				
第5回	言葉づかい2				実践トレーニング 2wayコミュニケーション				
第6回	コミュニケーション1				好感度の高い話し方・聞き方 人の呼び方				
第7回	前期テスト				テスト・前期まとめ・質疑応答				
第8回	コミュニケーション2				職場内コミュニケーション 報告・連絡・相談				
第9回	接客の基礎1				接遇の重要性 サロンでの接客				
第10回	接客の基礎2				実践トレーニング				
第11回	電話対応の基礎1				電話の受け方、架け方				
第12回	電話対応の基礎2				実践トレーニング サロンでの電話対応				
第13回	感動接客				おもてなしについて考える				
第14回	一般常識・各種マナー				名刺交換・紹介・席次 冠婚葬祭				
第15回	後期テスト				テスト・後期まとめ・質疑応答				
教科書	ビジネスマナー (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	サロン英会話			必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	アラン アスケル		無	
履修年次	2年全期	曜 日	木	時 限	3	単位数	1	時間数	30
学習目標	英会話で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、サロンで必要となる話題や身近な話題を英語での会話を通じて基礎的な能力を養う。								
授業概要	ロールプレイやゲーム等を取り入れながら、リスニング力、スピーキング力、表現力を養う。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	自己紹介			自己紹介の作成					
第2回	サロンでの会話			ロールプレイ					
第3回	質問（聞き方、答え方）			ロールプレイ					
第4回	お金の数え方			ゲーム					
第5回	文章の作り方①			動詞、形容詞を使った文章 インタビュー・ロールプレイ					
第6回	文章の作り方②			動詞、形容詞を使った文章 インタビュー・ロールプレイ					
第7回	形容詞を使う①			形容詞を使い、文章を作る					
第8回	形容詞を使う②			形容詞を使い、文章を作る					
第9回	比較			比較表現を使い、文章を作る					
第10回	Q & A			Q&Aの作成					
第11回	プロフィールの作成			留学生の友達を作る・ロールプレイ					
第12回	プロフィールの作成			Q&Aの作成・グループワーク					
第13回	買い物の仕方、店員とお客さん			ロールプレイ					
第14回	友達、家族、ペットの紹介			ゲーム、クイズ					
第15回	復習			ゲーム、クイズ					
教 科 書	外国語（日本理容美容教育センター）								
参 考 書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	パーソナルカラー			必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	土井 佳子		無	
履修年次	2年全期	曜 日	金	時 限	3	単位数	1	時間数	30
学習目標	パーソナルカラー(似合う色)について、色や人の特徴を理論的に分析することを学び、的確なスタイリングを行えるスキルを磨くことを目標とする。また検定3級取得を目指す。								
授業概要	テキストに基づき色彩学やパーソナルカラー理論を学び、カラーカードやカラードレープを用いて具体的な色表現や似合う色診断を行う。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	パーソナルカラーについて				4つに分類されるパーソナルカラーのタイプの人の特徴と色みの特徴を理解する。				
第2回	色の三属性について				色を理解する上で欠かせない色相、明度、彩度を考える。				
第3回	色のイメージについて				色の調子(トーン)を言葉で表したり、色をイメージに置き換えて表現する。				
第4回	ファッションカラーの基礎知識				柄や素材、アクセサリーの名称や特徴を学び、パーソナルカラーのタイプごとの分類を考える。				
第5回	コラージュ作成①				ファッション雑誌より切り抜きを行い、4つのタイプの色に分類する。				
第6回	コラージュ作成②				ファッション雑誌より、柄や素材、アクセサリーなども考慮に入れながら切り抜きし分類する。				
第7回	色の見え方について				色の対比現象と同化現象について学ぶ。				
第8回	光の特徴について				光源の違いによって起こる見え方の違いについて学ぶ。				
第9回	人の色素の特徴について				4つのタイプに分類される人の持つ肌、瞳、髪、頬など色素の特徴を考える。				
第10回	パーソナルカラー診断の実践①				カラードレープを使った、似合う色の診断を行い、現場での技術を学ぶ。				
第11回	パーソナルカラー診断の実践②				似合う色の診断によって得られたその人にふさわしいカラーを使ったスタイリングを考える。				
第12回	アドバイスシートの作成				お客様への具体的なスタイリングアドバイスをヘアスタイルも含めてシートにまとめる。				
第13回	スタイリングの応用①				よくお客様に質問されるファッションのコーディネート事例をもとに、スタイリングを考える。				
第14回	スタイリングの応用②								
第15回	技術確認				これまで学んだパーソナルカラー理論を応用し的確なスタイリングアドバイスができるかを確認する。				
教科書	一般社団法人日本カラーコーディネーター協会 色彩活用パーソナルカラー検定3級公式テキスト								
参考書	色彩活用パーソナルカラー検定3級・2級公式問題集								
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%(欠課時間数は補講を受ける)で単位を認定し評価を行う。								

課目名	理容 課題演習			必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	演習	寺岡 英之 門田 悠輔	有 (53年以上) 有 (1年以上)		
履修年次	2年全期	曜日	木	時限	1・2	単位数	7	時間数	210
学習目標	国家試験の実技課題、及び筆記課題について、より試験の内容に則した学習を行い、国家試験合格への実力を確実に引き上げることを目指す。								
授業概要	それぞれ単独で学習した課目を組み合わせ、実技課題の手順に合わせた練習や、筆記課題の出題通りに組み合わせられた練習問題を繰り返し行うなど、国家試験に対応した学習を行う。								
年間授業計画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回	シェービングと顔面処置を組み合わせられた練習				一年次にそれぞれ単独で学習したシェービングと顔面処置の技術を組み合わせ、より国家試験に対応した内容で練習する。				
第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回 第24回 第25回 第26回 第27回	カッティング技術の研鑽				一年次のカッティング練習の内容に、国家試験のルールを加味した内容で、知識と技術を深めていく。				
第28回 第29回 第30回 第31回 第32回 第33回 第34回 第35回 第36回 第37回 第38回 第39回 第40回 第41回 第42回 第43回 第44回	整髪（ヘアセッティング）の指導				国家試験実技課題で行われる整髪についての技術や手順の指導・復習。				
第45回 第46回 第47回	各技術課目、筆記課目に対する、国家試験対応力の引き上げ				<p>国家試験に対する実力を引き上げるため、各技術、筆記課題について繰り返し修練・学習を積みあげる。実技課題、及び筆記課題の学習ポイントは以下の通り。</p> <p>① 実技課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各技術手順を完全に記憶する。</li> <li>国家試験に伴う各技術のルールを理解する。</li> <li>国家試験に伴う各技術の衛生的処置を理解する。</li> <li>上記の事が無意識のうちに行えるまで練習を繰り返す。</li> </ul> <p>② 筆記課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークブックや教科書を利用して、各課目の知識の引き上げを図る。</li> <li>苦手な課目を作らないように留意する。</li> <li>一年次の期末試験などを活用し、卒業認定試験の合格を目指す。</li> <li>各課目の問題数が、国家試験通りに組み合わせられた練習問題を多く解き、国家試験に対応する実力を高める。</li> <li>上記の学習を繰り返すことで、最終的には全課目でコンスタントに6割以上の得点が得られるようにする。</li> </ul>				
第45回 第46回 第47回	メンズウィッグの処理と各種技法の確認				メンズウィッグの事前カットを通じて、各種カッティング技法の復習を行う。				

第48回	国家試験実技課題の対策	国家試験実技課題の実施順通りにカットティング、シェービング、顔面処置、整髪を組み合わせ、技術の準備や決まり事などについて集中的に学習する。また、衛生的処置を不備なく行えるよう厳しく審査をし、繰り返し練習を行って国家試験実技課題合格への高い実力を身に付けさせる。
第49回		
第50回		
第51回		
第52回		
第53回		
第54回		
第55回		
第56回		
第57回		
第58回		
第59回		
第60回		
第61回		
第62回		
第63回		
第64回		
第65回		
第66回	国家試験筆記課題の対策	国家試験筆記課題で出題される問題数通りに組み合わせられた練習問題を中心に、数多くの練習問題を繰り返し学習させることで、国家試験筆記課題合格への実力を身に付けさせる。
第67回		
第68回		
第69回		
第70回		
第71回		
第72回		
第73回		
第74回		
第75回		
第76回		
第77回		
第78回		
第79回		
第80回		
教科書	関係法規・制度、衛生管理、保健、化粧品化学、文化論、理容実技理論1・2、運営管理（日本理容美容教育センター）、衛生と実技の解説（理容師美容師試験研修センター）	
参考書		
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。	



課目名	理容総合			必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	実習	花本 茂喜	有 (35年以上)		
						門田 悠輔	有 (1年以上)		
						宍戸 裕介	有 (10年以上)		
履修年次	2年全期	曜日	水	時限	2	単位数	2	時間数	60
学習目標	理容師として備えるべき毛髪や頭皮（皮膚）の知識を深め、お客さまが抱える様々な悩みに対し、プロフェッショナルとして適切にカウンセリングが行えるよう、内容を習得させる。								
授業概要	保健（皮膚科学）の内容を復習するとともに、内容をさらに掘り下げて知識の集積を図り、実際のお客さまからいただくことの多い毛髪・頭皮の悩みについてのアドバイス方法を学習する。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	ドライヤーセットの基本			ウィッグを使用し、ドライヤーセットの基本を学ぶ。					
第2回									
第3回	クラシカルカット			ウィッグを使用し、クラシカルカットを学ぶ。					
第4回									
第5回									
第6回	ヘアカラー			スタイルに合わせ、ブリーチ・ヘアカラー等を使用する。					
第7回									
第8回									
第9回	クラシカルバリエーション			競技スタイルを通じて、ドライヤーセットの基礎、ブラシ、整髪料の使用方法を学ぶ。					
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
第16回	育毛ケア・毛髪の基礎知識			育毛ケアの語義と意義、毛髪の役割について学ぶ。					
第17回	頭皮の基礎知識			毛髪の構造や性状や性質について学ぶ。					
第18回				頭皮の構造や皮膚のはたらきについて学ぶ。					
第19回				スカルプチェックについて学ぶ。					
第20回	ヘア・ケア			頭皮のトラブルについて学ぶ。					
第21回				ヘア・チェックや毛髪が痛む原因について学習する。					
第22回	ヘアトリートメント			毛髪を痛ませないための知識などについて学習する。					
第23回	シャンプー			ヘアトリートメントの種類と成分、及び効果を学習する。					
第24回	スカルプ・ケア			シャンプーの目的と種類などについて学習する。					
第25回				スカルプトリートメントの種類について学習する。					
第26回				脱毛について学習する。					
第27回	育毛			脱毛や毛髪の成長のための条件について学習する。					
第28回				育毛の考え方や理論について学習する。					
第29回	カウンセリング（毛髪相談）			育毛のための条件や、育毛剤について学習する。					
第30回				お客さまからの毛髪相談などについて学習する。					
教科書	理容技術理論1・2、理容実習1・2（日本理容美容教育センター）、教員が用意するプリント資料を使用								
参考書	髪のノート（毛髪等の拡大画像資料集）など								
成績評価	実技試験60点以上、出席率100%(欠課時間数は補講を受ける)で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	シェービング			必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	実習	門田 悠輔	有 (1年以上)	花本 望喜	有 (9年以上)
履修年次	2年全期	曜 日	水	時 限	2	単位数	3	時間数	90
学習目標	一年次より学んだ国家試験実技課題練習としての顔面処置の知識・技術を基に、相モデルでの練習を中心的に取り組み、より実践的な技術力の向上を目指す。								
授業概要	一年次までのウィッグにおける練習内容を相モデルで実施することで、人とウィッグに対する技術の違いなどを理解させる。 シェービングの授業と組み合わせて行う。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	国家試験実技課題の復習と実践的技術の展開				国家試験実技課題の習熟を図るとともに、サロンにおける実践的な技術、器具、及び用具の取り扱いを説明する。				
第5回									
第6回									
第10回	ウィッグと人の皮膚の違いの認識				ウィッグと人の肌の質感の違いや特徴は全く異なるものであることを理解させ、技術の対応変化を促す。				
第11回	人に対応する技術力の向上				人によって異なる肌質に合わせた技術対応力を身に付けることを促す。				
第17回									
第18回	お客さまに快感を与えることができる技術へ能力を高める				相手をよく観察し、思いやって技術を行うことを促し、お客さまに満足してもらえるような技術力向上と意識改革を目指す。				
第30回									
第21回	単位認定試験、及び国家試験実技課題の直前練習				対人（相モデル、または教員モデル）にて単位認定試験を行うとともに、卒業に向けた最終的な練習を開始する。				
第30回									
教科書	理容技術理論2、理容実習2（日本理容美容教育センター）								
参考書									
成績評価	実技試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	シャンプー&マッサージ			必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	実習	門田 悠輔		有 (1年以上)	
履修年次	2年全期	曜 日	金	時 限	4	単位数	3	時間数	90
学習目標	一年次より授業を開始したシャンプーやヘッドマッサージの実習について、主に相モデルの練習を繰り返し行うことで、より実践的な技術力を身に付けさせることを目指す。								
授業概要	相モデルでの練習を繰り返し、バックシャンプーを中心としたシャンプー技術と、ヘッドマッサージを中心としたマッサージ技術の技術力を高める。また、リアシャンプーの指導を開始する。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	バックシャンプーとヘッドマッサージの習熟、及びリアシャンプーの技術指導				<p>シャンプー技術・マッサージ技術は、卒業生に最も強く求められる技術であり、本校では以下のポイントに重点を置き、学生の技術力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種用具などの取り扱いが正しく行えていること。</li> <li>・シャンプー技術、マッサージ技術の意義を正しく理解できていること。</li> <li>・シャンプー剤、トニックなどの塗布が不備なく行えていること。</li> <li>・一つの運行技術に対し、正しいストロークができていること。</li> <li>・全体に手指の動きが大きく、なめらかに運行できていること。</li> <li>・技術のスピード感、リズム感などが正しく行われていること。</li> <li>・拭き取り（タオルドライ）などが不備なく行えていること。</li> <li>・すべての技術が快感を伴うものになっていること。</li> </ul>				
第2回									
第3回									
第4回									
第5回									
第6回									
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
第16回									
第17回									
第18回									
第19回									
第20回									
第21回	卒業直前の技術修練と単位認定試験				<p>対人（相モデル、または教員モデル）にて単位認定試験を行うとともに、卒業を控えた最終的な練習を行う。</p>				
第22回									
第23回									
第24回									
第25回									
第26回									
第27回									
第28回									
第29回									
第30回									
教科書	理容技術理論2、理容実習2（日本理容美容教育センター）								
参考書									
成績評価	実技試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	理容実習				必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
					授業方法	実習	門田 悠輔		有 (1年以上)	
履修年次	2年全期	曜 日	主に月・火	時 限	1・2・4	単位数	13	時間数	390	
学習目標	「理容技術理論」に基づき、一年次の理容実習の内容の理解をさらに深めて、サロンワークに適応できる技術力への底上げを図る。									
授業概要	教員・講師による手本や見本等を用い、教員の指導のもと、基本技術の向上を目的に繰り返し練習をおこなっていく。									
年 間 授 業 計 画										
回	主 題				授 業 内 容					
第1回 ↳ 第40回	パーマントウェービング (ワインディング)				コンテスト出場などを目標に立て、ワインディング技術の深化を図る。					
第41回 ↳ 第50回	クラシカルバリエーションヘア (ドライヤーセット技術) (ヘアカラーリング技術)				学生競技大会の種目でもあるクラシカルバリエーションヘアの練習を通じてドライヤーセットとヘアカラーの技術の基本を学ぶ。					
第51回 ↳ 第57回	ネイルケア				ネイルケアの基本技術を学び、またネイルアートを練習することで美的センスの育成を図る。					
第58回 ↳ 第60回	バリアート (バリカンアート)				バリアートを練習することで、先進的なファッション感覚を磨き、美的センスの育成を図る。					
第61回 ↳ 第75回	ヘアカラーリング				ウィッグでの練習や、ヘアショーの練習の一環として相モデルでのヘアカラー実習を行う。					
第76回 ↳ 第90回	ヘアカッティング (レディースカット)				ウィッグを使用し、レディースカットの基礎を学ぶ。 (ワンレングス、グラデーションボブなど)					
第91回 ↳ 第150回	ヘアセッティング				国家試験課題である基本整髪や、ドライヤーやアイロンを使ったヘアセッティングの技術を深化させる。					
第151回 ↳ 第220回	ヘアカッティング (メンズカット)				国家試験課題であるミディアムロングを中心に、様々なスタイルのメンズカットを練習し、カッティング技術の深化を図る。					
第221回 ↳ 第270回	クラシカルバックスタイル (ヘアカッティング技術) (ドライヤーセット技術)				クラシカルバックスタイルを練習することで、ドライヤーセット技術と、ヘアカッティング技術の深化を図り、その成果を校内技術競技大会で披露する。					
教 科 書	理容実習1・2 (日本理容美容教育センター)									
参 考 書										
成績評価	期末試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。									